



令和7年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会

◇法人理念 「ともいきる」

理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

・人を大切にします

ひとりの「人」として向き合うこと。

相手の良さを知り、自分の良さを知ること。

相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。

人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。

仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。

行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。

法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。

先が見通せることで保護者に安心感を与えること。

できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。

はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠ノ井布施高田1034-3

FAX 026-299-3839

2. 役員組織

理事:6名

監事:2名

評議員:7名

3. 総 括

社会福祉充実残額に伴う社会福祉充実計画については、当初計画通りに、令和8年2月に竣工し、引渡となりました。事業としては、ウィズみらいサポートセンターの移転と生活介護の活動場所の拡大といった内容で4月からスタートしました。今後プラスアルファとして、地域の人たちを巻き込むような活動を展開していく予定となっています。

年度末での職員数は44人(うち育児休暇中3人)、昨年と同数となりました。退職者7名、採用者7名となっています。職員の増員も検討する中で、求人活動は行ってきていますが、福祉業界全体の課題として、応募数が少なかったり、全くない状況があります。職員の定着については、事業を進めていく上で考え続けていく課題となっていますが、運営会議を中心にキャリアアップに向けた取り組みを検討してきています。

事業収入については、前年度比+6.6%となりました。各管理者が立てた予算比は、全体としては+3.0%となりました。各事業ごとに細かくみていくと大きな増減があるため、その要因等については、運営会議にて情報の共有を行いました。

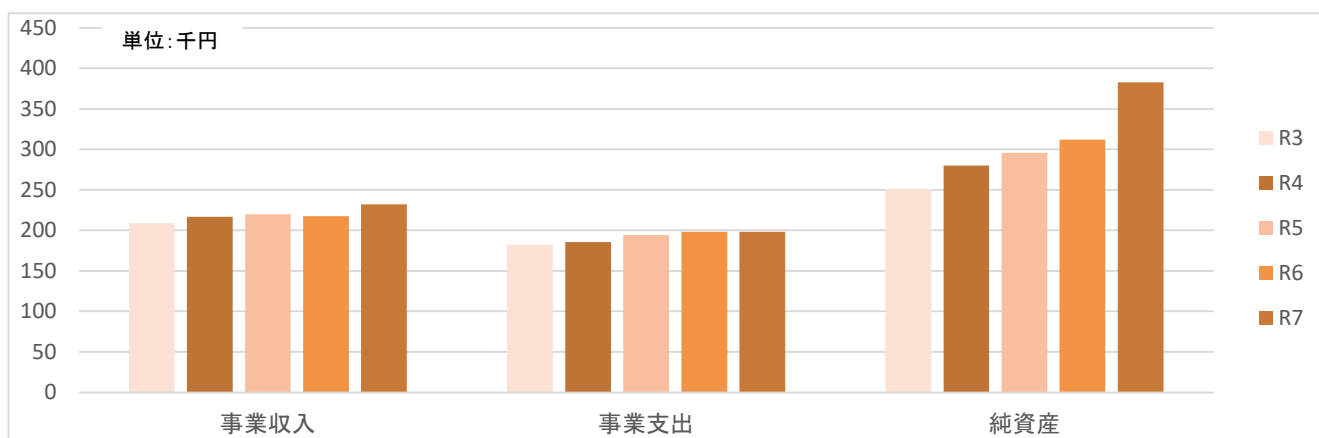
事業支出については、全体としては昨年度とほぼ同じ金額となりました。ウィズみらいサポートセンターの器具備品等については令和8年度の事業費に乘る予定となっています。補助金については単年度的な要素が強い物ではありますが、最大限活用しながら人件費、光熱水費の補助、ICT化、備品購入等行いました。人件費率は67.8%(障害福祉サービス66.8%、公益事業72.2%となりました)。

4. 経 営

社会福祉法人ともいき会 過去5年間決算推移

(単位:千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	前年比
事業収入	208,991	216,718	220,076	217,712	232,097	106.6%
事業支出	182,396	185,459	194,144	198,050	197,976	100.0%
内人件費	145,463	148,941	154,705	154,935	157,293	101.5%
人件費率	69.6%	68.7%	70.3%	71.2%	67.8%	-
福祉事業活動 資金収支差額	26,595	31,259	25,933	19,662	34,121	173.5%
施設整備・財務 活動収支差額	-14,501	-49,277	-20,753	-13,896	-22,590	162.6%
当期収支差額	12,094	-18,018	5,180	5,766	11,531	200.0%
純資産	250,884	279,867	295,711	312,152	382,754	122.6%



5. 各種会議

会議名	回数	主な協議内容
理事会	1	R7.6.5 令和6年度事業報告、計算書類、財産目録の承認、施設整備等 R7.6.23 理事長選任 R8.3.9 令和8年事業計画
評議員会	1	R7.6.23 令和6年度事業報告及び決算報告の承認
評議員選任 解任委員会	1	R7.6.17 評議員選任
運営会議	月1回	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会議	月1回	・人材育成部会 ・権利擁護部会 ・安全部会 ・衛生部会 ・リスクマネジメント部会 ・地域部会
虐待防止・ 身体拘束 適正化委員	4	・虐待防止のための働きやすい環境づくりに向けて ・他県で虐待と認定された事案に関する内容について自法人での対応についての 振り返りと今後について
感染症 対策委員会	4	・食中毒予防、感染症対策について ・感染症対策研修について

6. 苦情受付

令和7年度における苦情は1件でした。
 苦情内容として、利用の体験時に、体験者が少し早めに到着した際にスタッフがまだ送迎から戻って
 いなかったことで、忘れられたと思い帰宅してしまったことで学校の担任からの連絡がありました。
 本人、保護者に謝罪をし、送迎時間を考慮し、来所時間には余裕を持った時間を設定し、再度体験
 の日取りを決め直しました。引き続き、ご意見や苦情に対して真摯に向き合い、対応をしていきます。

7. 虐待事案

令和7年度における虐待件数は0件でした。
 職員全体で支援の振り返りや研修等を通して虐待に関する知見を深め、虐待を未然に防ぐことが
 できるよう努めていきます。

8. 各部会

◇人材部会

・目的 法人職員の研修事業を中心とし、質の向上のために要求されるスキルを身につけると共に
 利用者や法人に貢献できるようスタッフの育成を目指していきます。

・内容

(1) 外部研修

月	人数	内 容		月	人数	内 容	
5	4	塩尻	障がい福祉サービス従事者新人研修	10	1	東京	マッチングスキル等向上研修③
5	1	千葉	障害者就業・生活支援センター就業支援スキル向上研修(前期)	10	1	熊本	全国相談員ネットワーク研修会
6	1	長野市	普通救命講習Ⅱ	10	1	東京	令和7年度就労選択支援員養成研修
6	3	長野市	第1回長野市虐待防止研修	10	5	長野市	サビ管・児発管更新研修
7	1	千葉	障害者就業・生活支援センター就業支援担当者研修	11	1	東京	定着支援研修②

7	1	松本	障害者の就労支援に関する基礎的研修	11	2	オンライン	全国就業支援ネットワークオンライン予算説明会
7	1	オンライン	就業生活支援基礎講座よろずや相談室	11	2	オンライン	JSN発達支援事業報告会
8	2	オンライン	すべての子ども達に幸せに生きるための性教育を	11	2	オンライン	南関東ブロック経験交流会議
8	1	松本	就業支援基礎研修	12	2	オンライン	第3回就労系事業所からの一般就労への在り方を学ぶ研修会
9	1	オンライン	R7 強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修)	1	1	オンライン	主任職場定着支援担当者経験交流会議
9	1	東京	マッチングスキル等向上研修①	1	3	長野市	障害福祉サービス従事者研修
9	1	東京	定着支援研修①	1	1	東京	令和7年度就労選択支援員養成研修
9	1	松本	相談支援専門員主任研修	2	3	東京	全国就業・生活支援センターフォーラム
10	1	長野市	第2回長野市虐待防止研修	3	2	東京	CEF2026～質の高い障害者雇用を考える会議～
10	1	東京	マッチングスキル等向上研修②	3	1	オンライン	令和7年度発達障がい支援者研修会

(2) 内部研修

月	人数	内容	月	人数	内容
5	6	新人研修(本部)	7	全職員	職員全体研修～教える技術～
6	7	新人研修(各部会)	9	全職員	BCP計画(自然災害)
6	全職員	権利擁護部会研修	10	2	送迎担当高齢運転者研修
6～	新人職員	OJT研修	11	全職員	防犯マニュアルに基づく研修・訓練
6	全職員	感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための研修	2	全職員	報告会(新人スタッフ報告)

○職員全体研修(2月)

- ・新人職員が『1年を振り返って』というテーマで発表を行いました。
- ・併せて、新人職員に毎年恒例となっている『良いところ表彰』を行いました。

○外部講師を招いての研修

講師:しょう×ちくま 牧 千秋 氏

テーマ:『教える技術』

- ・ジョブコーチの基本的手法である”教える技術”をテーマに講義と演習を行いました。

演習では障害者役の支援者に実際CDの組立作業を教えてみたのですが、必要以上に手や口頭での指示が増えてしまい、伝えることの難しさを実感した研修でした。

○新人職員研修

- ・法人の理念や各センターの役割について学びました。
- ・部会による研修:安全衛生部会(AED研修)、リスクマネジメント部会(ヒヤリハット)について学びました。
- ・法人内OJT研修:R7.5～

○外部研修、資格研修等

- ・県内研修 : 9研修(延べ20名参加)
- ・県外研修 : 12研修(延べ15名参加)
- ・オンライン研修:9研修(延べ14名参加)
- 計:30研修(延べ49名参加)

○その他

- ・広報誌:外部向け第4号発行、内部向け R7.5月発行
- ・職員面談:年3回実施



◇権利擁護部会

- ・目的 虐待防止の啓発及び研修を進め、人権の尊重や権利擁護の具現化をすること、並びに利用者に安心と安全を提供するサービスの質の向上を目指した活動を展開します。
- ・内容

○法人内職員研修

成年後見制度に関する研修とストレングス視点を養う研修を実施しました。利用者の強みや良いところを見つける力をつけることにより、「やらせない」ではなく「こうやってみよう」の意識を高め、虐待防止に繋げる研修を実施しました。

○ほっこり企画第2弾

虐待防止の啓発活動の一環として、「〇〇してはいけないではなく、見るとほっこりとした優しい気持ちになれることによって虐待を無くしていこう」をコンセプトにした企画の第2弾を実施しました。

各部署より、素敵写真を選び提出してもらい、12月の障害者週間のポスターにしました。1か月だけの期間限定での掲示でしたが、見ると癒される等のご意見もいただき、利用者の方も眺めている姿が見られました。今後に関しても、12月の障害者週間に限らず、「〇〇デー」に合わせて啓発活動を展開していきたいです。

◇リスクマネジメント部会

- ・目的 リスクマネジメントを通して、法人コンプライアンスの遵守等、職員への啓発と共に、利用者に安心して利用していただくために、安全と的確なサービスの実施に努めます。
- ・内容

○定期部会における現状把握と情報共有

- ・事故対策委員会を開催する事案はありませんでした。
- ・事故報告・ヒヤリハットの内容確認を行い、俯瞰的な視点で対策・検討をしました。他部署の事例についても、理解を深められるよう分かりやすく共有しました。

○リスクマネジメントにおける啓発活動

- ・継続的な啓発活動を行う事で、ヒヤリハットの報告も定着してきました。月によりばらつきもある為、今後も継続した啓発を行っていきます。
- ・他部署の事故報告書は回覧をし、部署内で類似する事故に関しては各部署ミーティングで周知や、対策の共有を行いました。
- ・新人OJTの実施(リスクマネジメントの概要(事故報告・ヒヤリハットについて)。
- ・業務におけるチェックリストの実施(個人情報含め、危険要因の確認と振り返り)。(5.12月)
- ・法人研修の実施(防犯マニュアルの確認周知、不審者対応に関して過去の演習動画を用いて初動対応について検討)。(11月)

○リスクマネジメントの実施と把握

- ・ヒヤリハット:スタッフ間で主体的に声が上がるような雰囲気作りやアセスメントを行いました。また、類似事例が多く出ているため、部署の中で傾向と対策について話し合い、事故に繋がらないよう意識を高めました。
- ・事故報告書、モニタリング:事故発生後に原因分析、対策を検討することで、様々な視点や気付きがあり、意識の向上に繋がりました。引き続き、意識を継続し、対策の日常化できるよう取り組んでいきます。一人のケースを追ってモニタリングを行う事で、傾向と対策が見えてきました。

○部会員によるリスクマネジメントの学習

- ・リスクマネジメントに関する目的、役割、実施手順について確認をしました。
- ・防犯マニュアルの見直し、検討を行いました。新規建物におけるマニュアル作成や防犯訓練実施の必要性を感じました。

○内容、分析

年間事故報告件数18件 年間ヒヤリハット件数244件

児童発達3件 (過誤請求1、車輛物損1、怪我1)
放課後7件 (対人怪我1、怪我1、車輛物損1、送迎忘れ1、紛失1、物損1、過誤請求1)
キャリサポ1件 (車輛物損1)
生活4件 (物損1、車輛物損2、情報管理1)
就労3件 (怪我1、物損1、紛失1)

- ・事故報告18件のうち、車輛物損が最多の5件となりました。例年よりも少々多くなっています。個々の運転時の安全意識を部会、部署においても常に啓発を続けていきます。
- ・サービス利用中における、事故発生時の行政への報告義務による報告は、活動中の怪我が2件(骨折、怪我)ありました。
- ・ヒヤリハットの年間件数は244件でした。例年より減少しており、部署、時期により件数のばらつきがみられました。また内容によってはモニタリングを行い、対策の実施と効果の確認を行いました。内容、対策の共有と記入に対する意識継続の為に、啓発を続けていきます。

◇安全部会

・目的

- ・防災訓練や自然災害発生時における研修や訓練を進め、一人ひとりが災害について知識を深めスキルアップを図ります。

・内容

- 自然災害発生時におけるBCPに関する研修・訓練
- ・9月 動画視聴「地震から身を守る」、BCP計画のパワーポイントとQ&A
- 避難訓練
- 6月、11月:地震→火災 9月:水害
- その他
- ・資料の整備:BCP計画、非常災害対応
- ・防災グッズ、備蓄品の確認・管理

- ・避難訓練実施後に備蓄品を全職員で試食しました。
- ・BCP研修では、長野市における地震のリスクの動画を視聴しました。机上訓練としてBCP計画とは何か、ともいき会のBCP計画の説明をQ&Aを用いながら確認を行いました。



◇衛生部会

- ・目的 感染症に係る研修を通して、安全な職場環境の形成や利用者職員の健康安全の確保に努めます。
- ・内容

○活動

- ・BCP計画(感染症)の確認を研修を通して実施しました。
- ・熱中症、インフルエンザ、ノロウイルス等感染症予防について、感染症対策委員会と連携して利用者及び
家族、職員に通知を配布して周知を行ないました。感染症等の感染拡大はありませんでした。

○研修

- ・BCP、感染症対策に関する研修及び応急手当研修
 - ・6月:手洗いとマスク着脱の動画視聴と実技 心肺蘇生法実技(胸骨圧迫、AED使用方法)
 - ・11月:汚物処理の動画視聴と実技 BCPの確認⇒アンケートで振り返り
- ・新人研修
 - ・6月:心肺蘇生法実技(胸骨圧迫、AED使用方法)
- 感染症対策委員会 3カ月1回(4月、7月、10月、1月に実施)
- 感染症対策委員会との連携
 - ・感染予防、感染に関する問題把握、発生時の対策等について検討しました。

◇地域部会

- ・目的 地域を知り、地域のニーズをより深く知ることで、法人として取り組めそうなことを検討し内外に発信することで、篠ノ井地区の住民として、また地域の一助として参画していきます。
- ・内容

○地域のニーズを探り、関係機関へ発信する

- ・地域行事への参加
 - 南条地区の側溝清掃への参加(4月) 南条不動尊節分縁日祭(2月)
 - 「みらいサポートセンター」内覧会の実施(地域住民:13名、保護者17名、学校関係2名見学)
- 篠ノ井びんずるへの参加
 - ・「篠ノ井福祉連」として篠ノ井地域の障害福祉事業所と篠ノ井びんずるに参加しました。
(ともいき会:15名+4事業所:12名)
- 新規施設「みらいサポートセンター」の活用方法の検討
 - ・地域コミュニティーの場として「駄菓子屋」「憩いのスペース」としての開放を検討しています。

○ウィズフェスタ2026の検討

○法人内外への発信、各センター・各部会との連携

- ・内覧会での地域住民の声を法人に発信しました。
- ・内覧会のお知らせを南条地域に回覧しました。
- ・広報誌にて取り組みを掲載しました。

○外部会議への参加

- ・篠ノ井びんずる踊り参加連代表者会議
- ・地域福祉ネットワーク会議
- 「長野市における買い物支援を考えるセミナー」



1 事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。
2 事業内容	障害児通所支援 ○児童発達支援
3 事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00
4 職員体制	管理者・児童発達支援管理責任者1名、保育士4名、児童指導員1名

事業目標	実績報告	実施月
1. 一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の想いをもとに利用時の様子や支援会議・参観面談等で共有した内容を踏まえて個別支援計画の作成を行いました。 ・個別支援計画・モニタリング作成時に職員間で検討、ミーティング内で共有し、一人一人に合わせた支援の方向性を検討しました。 	6ヵ月ごと (随時)
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会の課題では自信をもってでき、課題以外にも「あと一歩」でできそうな課題も取り入れ、ステップアップする中で個人の力を伸ばすことが出来るよう支援しました。 ・食事や排泄・操作面など、保護者と現状を共有したうえで自分でできること、支援が必要な事柄について把握し、個々の支援に繋げました。 	通年
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の想いを汲み取り、その場でどのように表出すると伝わるのか、どのように行動すると解決できるのか、手立てを一緒に考えました。 ・統一した支援を目指し、発信すること・自身で行動することが身につくよう支援しました。 	通年
2. 将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実させていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事としてりんご狩り・ハロウィン(調理活動)、外出学習として他事業所(だがし家らそ)へ買い物学習、卒園児を対象に外食学習を実施しました。 	通年
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会では利用者の興味関心を示すものや個々の力に合わせた課題を設定しました。好きな物(数字・平仮名・色・キャラクター等)を知り、関心を持って参加することが出来るよう工夫することで、着席して取り組むこと、最後まで取り組むことに繋がるよう支援しました。 	通年
	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の表出手段ややり取りをする上で必要となる理解する力を観察し、ひとり一人に合わせた方法でコミュニケーションをとる経験をつみ重ねることが出来るよう支援しました。 ・単語から2語文へ、直接行動からサイン等、表出の幅が広がるよう支援しました。 	通年
	<ul style="list-style-type: none"> 【他部署との交流】秋の縁日・クリスマス会 【地域との交流】買い物学習(西友篠ノ井店・銘菓のマツキ)・りんご狩り・手作りカレンダーの配布 【保育園交流】子供の園保育園との交流(年5回) ・地域の子ども達との関わりを通して社会性を育みました。 	随時

3.保護者、関係機関との連携を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参観・面談を定期的に行い、朝の会の取り組みの様子を実際に見学していただき、面談で利用者の様子について情報共有しました。 ・コドモンの配信や送迎時に、朝の会の取り組みや活動の様子について共有しました。 	通年
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議への参加、併用先の園に訪問し、情報共有や課題の確認をし、支援の方向性を統一しました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会(こども部会)に参加しました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を実施しました。子育ての悩みや園に入園するにあたっての不安等が話題となりました。 	12月
	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市南部で放課後等デイサービスの説明会が開催され、そちらへのご案内をしました。希望がある方については個別での面談を実施しました。 	11月
4.職員の支援技術の向上を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回ミーティングを実施し、個別支援計画・モニタリングの検討、ケース検討等を行いました。 ・利用者の変化や課題等を話題にし、支援方法について検討しました。 	週1回
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの記入と確認を行い、職員間で共通意識を持って再発防止できるよう努めました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内外の研修への参加、他事業所の見学を行いました。 ・研修報告書を閲覧、研修内容を学ぶ機会となりました。 	随時
5.新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関にパンフレットの配布・補充を行いました。(保育園・幼稚園・相談支援事業所・療育コーディネーター等) 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有と情報発信を行い、新規利用に繋がるよう努めました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに行事の開催報告を掲載し、活動内容を公表しました。 ・サービスの質の向上を目指し、自己評価の掲載を行いました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望の方に朝の会に実際に参加していただく機会を設けました。事前に保護者から利用希望児の興味関心や理解していること、コミュニケーションの取り方等の聴き取りを行い、意欲的に参加することが出来るよう設定しました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画の随時見直しを行い、周知を行いました。 	随時
6.地域の方々に知っていただけるよう発信をしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の商店に出向き買い物学習を行ったり、なかよし給食では地域の飲食店と交流を図りました。 ・子供の園保育園と交流を行いました。 	随時
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで活動の様子・取り組み等の掲載を行いました。 	随時

(児童発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
R05	年度	29	3	7	15	14	9	1981	82.5%
R06	年度	28	2	5	9	12	7	2043	85.3%
R07	上半期	20	1	4	5	10	4	882	73.0%
	下半期	19	2	3	6	8	2	899	63.0%
	年度	19	2	3	6	8	6	1781	68.0%

○分析

○3月末、19名の登録。

○療育コーディネーターの紹介での見学・体験、新規利用への流れが定着しています。

○例年、入園申し込みが始まる10月辺りから見学・体験希望が増えますが、今年度は12月辺りからと遅いスタートでした。事業所の数が増え、利用希望者の見学事業所数が増えたことが理由と思われます。

○9割以上が保育園・幼稚園を併用しており完全移行を目標としているため振替を希望する方がおらず、また、園行事等を優先し登園することが多いため、月により稼働率の偏りが見られます。

○今年度も園行事・リハビリ等での欠席が多く見られました。療育コーディネーター等と連携し、新規利用者受け入れのための宣伝活動を行い、利用者の確保に努めていきます。

2. 連携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園 移行(増日含む)
R05	年度	70	10	48	12(完全移行2)
R06	年度	75	9	52	5(完全移行5)
R07	上半期	22	2	18	3
	下半期	24	2	11	1(完全移行2)
	年度	46	4	29	4(完全移行2)

連携先

○福祉(南部相談支援センター、千曲坂城基幹相談支援センター)

○教育(各幼稚園・保育園・認定こども園、特別支援学校、各小学校、教育センター)

○医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院)

○行政(長野市・千曲市(こども総合支援センター、こども相談室、保育・幼稚園課)、保健所、各保健センター)

○その他(保護者、親戚)

○分析

○園と併用している方は園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者には園開放や入園申し込みについての情報を提供をし、就園のお手伝いをさせていただきました。

○利用までの待機期間が長くなっていること、完全移行のお手伝い・アフターフォローとして保育所等訪問のサービスを開始する予定です。

○年長児であったものの保育園などの社会資源に繋がっていなかった児童を週2日から受入れ、就学に向けて年度末には週5日の受け入れを行いました。

○関係機関と連携を図りながら、保護者の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、令和7年度は4名の児童が園の利用日数を増やし、また2名が完全移行となりました。児童により利用の頻度は様々ですが、児童の様子を観察し園と連携を図りながら完全移行を目指していきます。

1	事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやる事ができる力を育めるような支援をしていきます。
2	事業内容	障害児通所支援 ○放課後等デイサービス 地域生活支援事業 ○自立サポート、タイムケア
3	事業概要	放課後等デイサービス 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間14:30～18:00 定員10名 休日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00 タイムケア・自立サポート
4	職員体制	放課後等デイサービス 管理者・児童発達支援管理責任者1名、保育士3名、 児童指導員3名、 地域生活支援事業 指導員等10名(非常勤職員)

事業目標	実績報告	実施月
1.利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○個別、集団活動の中で、現在の課題が達成できるよう、状況や個々の特性に配慮した支援を行いました。 ・口腔衛生は土曜や学校休業日に持参された方を対象に、利用者の状況に応じた対応を継続して実施し、定着意識の向上がみられました。	通年
	○本人、ご家族の想いと共に、各種計画、アセスメントを基に5領域に配慮した個別支援計画を作成し、計画に基づいた支援を行いました。	通年
	○個別支援計画を基に日々の様子等を記録し、記録を基に記載内容をスタッフ間で確認しながら定期的にモニタリングを行いました。	6ヶ月毎
2.将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○季節に合わせた活動を計画し、社会性やルールを学べるよう目的を持った活動を実施しました。 ・公園遊び、プール・川遊び、おやつ作り、外食、カレンダー制作、体育館活動、地域のイベント参加、調理活動、お買い物活動等。 ・ういずふあーむ:とうもろこし(イエローポップ)栽培。 ・Clubサンズ:お弁当作り、ボーリング、ぶどう狩り、AC長野パルセイロサッカー観戦、初詣等。	随時
	○将来を考えるきっかけとなるよう、学校休業日にクッキーの袋詰め、アパート清掃、内覧会用お菓子の袋詰め等の就労体験を実施しました。	8.9月
	○体育館活動(キャリサポ、生活)、プチ縁日玩具作り(児童)、新潟バスツアー等他部署との交流活動を行いました。	随時
3.保護者、関係機関との連携を図ります。	○保護者と日々の様子の共有や連絡調整、学校や関係機関と情報共有を行いました。 ・保護者とは送迎の際や連絡帳、電話等にて日々の様子をお伝えし、保護者や利用者の想いも確認しながら共通認識を持てるように心掛けました。 ・学校、関係機関と引き渡しの際や、電話、会議等で随時情報共有を行い、日頃の様子や目標、課題の確認、支援方法等の統一を図りました。	随時
	○自立支援協議会(長野市子ども部会)、南部会(長野市南部放課後等デイ事業所)へ参加しました。 ・子ども部会では、昨年に引き続き学齢期支援会議に参加し、主に放課後子ども総合プランの支援者の方々と連携についての議論を行いました。 ・南部会では、支援者ワーキングや説明会に向けての打ち合わせ、課題等の共有、検討を行いました。	随時

3.保護者、関係機関との連携を図ります。	○長野市南部の事業所合同で放課後等デイサービス説明会を実施し、事業所の概要や活動内容を説明を行いました。	10月
	○保護者向けに、みらいサポートセンター施設内覧会、ICT説明、保護者会を実施しました。また、希望制にて個別面談を実施しました。	3月
4.職員の支援技術の向上を目指します。	○ミーティングにて情報共有の他に、活動や支援についての課題検討、支援の方針決定を行いました。 ・定期的に支援計画原案、モニタリングの共有、方針の確認を行いました。 ・会議内容、研修報告、活動計画案、行事計画(担当制)、個別の課題等の内容共有、対応方法の検討を行いました。 ・必要に応じて随時、口頭又はLine等で共有を行っています。	月2回
	○ヒヤリハット、事故報告書等の記載を行い、内容の確認や検証、未然防止に努めました。	随時
	○法人内外の研修に参加し支援技術、意識の向上に努めました。また、ミーティングにて共有を行いました。 ・虐待防止権利擁護研修、強度行動障害基礎研修、サビ児管更新研修等。	随時
5.地域の中で、安心安全に過ごせる事業所を運営します。	○みらいサポートセンター移転に向けて、運用方法の検討、物品の整備、保護者周知を行いました。	2.3月
	○保護者アンケートを参考に、業務改善の目標設定と振り返りを含めた自己評価を実施し、ホームページにて公表を行いました。	11月～2月
	○お便りを発行し連絡事項、活動内容等の周知を行いました。また、活動報告を作成、配布とホームページに掲載を行いました。	年4回

(放課後別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
R05	年度	40	24	10	6	7	2539	83.4%	23
R06	年度	38	23	8	7	2	2620	86.9%	19
R07	上半期	41	24	10	7	7	1392	94.8%	20
	下半期	40	23	10	7	0	1290	89.0%	20
	年度	40	23	10	7	0	2682	91.9%	20

2. 月別利用者

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月												
開所日		26	25	25	26	21	24	26	23	26	23	22	25												
延べ人数		225	251	240	244	204	228	259	211	214	207	185	214												
平日	休日	155	70	225	26	210	30	152	92	71	133	200	28	223	36	173	38	176	38	150	57	164	21	90	124
その他利用者		107	119	106	113	95	114	111	110	106	207	105	103												
稼働率		87%	100%	96%	94%	97%	95%	100%	92%	82%	90%	84%	86%												

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
R05	年度	3	5	0	0	0
R06	年度	3	5	0	0	0
R07	年度	3	5	1	0	0

○分析

○新規利用者は、新1年生の7名利用となっています。年度途中での新規利用者はありませんでしたが、地域小学校の方1名が利用終了となっています。また、年度末で高等部卒業3名、進級を期として2名利用終了となりました。

平日は登録1日平均12名、土曜日は13名程度の登録(不定期含む)、1日平均8名程度の予約でした。

○年度末登録利用者40名のうち、26名の約63%が稲荷山養護学校の生徒となっています。また、地域校の生徒は12名の29%となっています。

○5月より祝日の利用制度を自立サポートに変更しています(利用制度変更により全体稼働は上昇しています)。12月、2月は学級閉鎖や感染症欠席等により稼働率は減少しています。

4. 連携

連携先

		支援会議
R05	年度	43
R06	年度	50
R07	上半期	26
	下半期	31
	年度	57

・福祉(長野市南部障害者相談支援センター、療育コーディネーター、各相談支援事業所、児童相談所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育機関(各特別支援学校、各地域の小中学校)、医療機関(稲荷山医療福祉センター、日本赤十字病院、竹重病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分析

○南部の放デイ事業所が集まるグループワーキング(南部会)では、長野市南部合同説明会や、来入児の事業所見学時期の統一、支援者ワーキングを開催し、日頃の疑問や悩み等を話す機会を設け、連携を図りました。また、事業所連絡会にも参加し、近隣の児童センターやプラザ、放デイ事業所等でグループワークを行い現状に対する意見交換を行いました。

今後も継続的に会議への参加や関係機関と情報交換を行い、課題の解決に向けた取り組みや空き情報等の発信を行っていきます。

○支援・関係者会議は、会議の回数は増加傾向です。内容としては、本人の様子や検討事項、可能性、利用方法等についての確認、共有を行っています。

○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活を送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1 事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます
2 事業内容	障害児通所支援 ○放課後等デイサービス ○自立サポート
3 事業概要	定員10人 平日 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 14:00～18:00 土曜・長期休暇 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 10:00～16:00
4 職員体制	管理者・児童発達支援管理責任者1人、保育士2人、児童指導員1人

事業目標	実績報告	実施月
1. (利用に当たり) 利用者一人ひとりの想いを傾聴し、目標を明確にした利用ができるよう、サービスを提供します。 安心・安全に利用できるよう配慮します。	○個別支援計画の作成に当たり、ご本人を中心にご家族の想いを踏まえて、センターでの目標を計画に盛り込みました。	利用開始時
	○各目標に対してどの領域が関係してくるのか、ご本人と一緒に意味を確認しながら計画の作成を行いました。	随時
	○作成時、モニタリング時以外にも適宜目標について確認をし、その都度スモールステップの目標をお伝えしながら支援を展開しました。	随時
2. (生活スキルの向上) 利用者が自分らしく自信を持って生活していくために、出来ることを増やす支援をします。	○子どもたちにも人気のテーブルゲーム等を取り入れ、楽しく参加できる工夫をしてきました。	随時
	○他の人との関わりを重視した活動を取り入れてきました。お互いに長所短所があることを伝え、相手への尊重を伝えてきました。	随時
3. (「働く」意欲の向上) 将来、「働くことがイメージできる」支援を提供します。	○毎月月末の土曜日に高校生向けの講座を実施してきました。	毎月末
	○夏休みには、西友にて体験実習を行いました。実習に際して、事前と事後に講座を実施し、目標設定と振り返りを実施しました。	8月
	○センターの卒業生で現在一般企業で働いている方に働く楽しさややりがい、大変さなども含めてお話いただく交流会を実施しました。	8月
4. (稼働率の向上) 新規利用者の確保及び、登録者1人当たりの利用日数を増やしていけるよう活動を展開します。	○小学校低学年の受け入れも開始しました。当初同じ活動を行いましたが、できることの違いに差があり、最終的に別々の活動となりました。	随時
	○第3回バスツアー企画を11月に実施しました。8名の利用者に参加していただき、新潟市の水族館へお出かけしました。	11月
	○事業所の移転に向けて物件見学や利用者への説明を行いました。継続してご利用していただけるよう送迎等の工夫をしました。	随時
5. (支援スキルの向上) 職員の支援技術及び資質の向上に勤めます。	○不登校支援に関する研修会に参加をしました。支援に関しては、関係者での会議での統一した支援を大切にし、一貫した支援を行います。	7月
	○子どもたちと関わる上で、何に興味があるのか、何が流行っているのかをリサーチしつつ、活動内容にも取り入れてきました。	随時
	○プログラムを担当制にし、それぞれが企画、実行を行い、全員が実施できるように努めました。	随時
6. (ネットワークの構築) 保護者・関係機関との連携を強化します。	○支援会議への積極的な参加をし、学校、保護者、関係者との連携を深めることに努めてきました。令和7年度に参加した支援会議は34件でした。	随時
	○長野市ふくしネットへの執行部として参加しました。放デイ事業所連絡会及び説明会について中心となって実行していききました。	随時

(キャリアサポートセンター別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	平均稼働率
R05	年度	28	9	8	11	4	1349	49.3%
R06	年度	26	4	13	9	5	1282	45.7%
R07	上半期	23	2	11	10	3	665	46.0%
	下半期	24	2	11	11	3	714	49.3%
年間計・平均						6	1379	47.7%

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	22	23	23	23	23	23	23	23	23	26	26	24	
開所日	25	24	25	26	21	24	26	26	23	23	22	25	290
延人数 平日・休日	83・27	80・31	78・30	96・25	91・23	69・32	88・28	64・36	85・34	77・46	78・32	49・97	938・441
稼働率	44%	46%	43%	47%	54%	42%	45%	43%	46%	53%	50%	59%	

○分析

○令和7年度新規利用者6名でした(稲荷山養護学校小学部、櫻ヶ岡中学校、広徳中学校、東部中学校、通信制高校、稲荷山養護学校中等部)。それぞれ相談支援専門員からの紹介でした。
 ○見学・体験10件、問い合わせのみ5件でした。
 見学・体験後に利用に繋がった方が6名でした。繋がらなかった方の理由として、現在不登校状態にあり、ご本人もセンターまで来たものの中に入ることができなかったケース、他の利用者の大きな声が気になり行きたくないとなったケース、移転により距離が遠くなるため他の事業所を探すとなったケース、体験を行いつつ現在も検討をしているケースでした。
 ○11月に第3回バスツアーを実施しました。新潟のマリンピア水族館、ふるさと村へとお出かけをしました。当日に電車が運休のため急な欠席もありましたが、出発から帰宅までの間では大きなトラブルもなく運行することができました。
 ○今年度より小学1年生の利用者の受け入れを始め、ご利用いただいています。その中で、同じ学校のメンバーや音が気にならない方はうまく距離を取りつつ関わっている反面、静かな環境を求めている方たちからは、賑やかな環境であるならば今後利用をするかどうか考えたいというご意見もいただきました。相性等を見極めつつ、それぞれが利用する日を調整し、安心して過ごせるよう配慮をしていけるよう努めます。
 ○高校生2名がアルバイトを開始したことにより、平日のキャンセルが増えてきています。社会経験を積む上ではとても良い経験であるため、今後も推奨はしつつ、可能な範囲でご利用いただけるよう相談をしていきます。
 ○中高生を対象に働く先輩のお話し及び交流会、高校生を対象にスーパーでの体験実習を実施しました。体験実習の際には事前にそれぞれに「あいさつの声を出す」、「2時間集中して取り組む」等の目標を設定し、実習後には本人の中での目標の達成度等の振り返りを実施し、「最初は嫌だなんて思ったけど、やってみたら思ったよりもできた」等前向きな感想が聞かれました。

3. 連携

連携先

		支援会議
R07	上半期	20
	下半期	14
	計	34

(学校関係)長野養護学校、稲荷山養護学校、三本柳小学校、西部中学校、篠ノ井西中学校、広徳中学校、櫻ヶ岡中学校、長野西高等学校中条校、祥雲高等学院、東部中学校
 (相談関係)ブルースター、はびねす若里、にじいろキッズらいふ、ハーモニー桃の郷、森と木ベターデイズ

○分析

○支援会議参加34件。可能な限り支援会議への参加をしました。長期休業中や夕方の会議において、送迎、現場対応等による参加が難しい場合においてはセンターでの様子をまとめた書類を提出して、情報共有を行いました。
 ○その他…長野市ふくしネットこども部会執行部13回、放デイ事業所連絡会3回(6/26、9/11、12/19)、児童発達連絡会2回(8/28、11/27)、学齢期支援連携会議1回(7/17)、長野市北部放デイ事業所説明会(10/2)、ふくしフェスタ(11/13)

1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。
2	事業内容	障害福祉サービス ○生活介護事業
3	事業概要	生活介護 定員20名 開所時間平日 9:00～18:00 サービス提供時間 9:00～16:00
4	職員体制	管理者・サービス管理責任者 1名、支援員 9名、准看護師 1名、運転手 2名

事業目標	実績報告	実施月
1. 生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○利用者や家族との面談を通し、家庭や他事業所での様子を把握する事に努めながら個別支援計画の作成、モニタリング会議を行いました。	6ヶ月毎
	○利用者の様子で気になる変化が見られた時は、保護者へ報告を行いました。状況把握や今後の対応について保護者と共通認識を持つように心掛け、必要に応じ併用先や相談支援専門員と情報共有を行いました。	通年
2. 活動内容の充実を図ります。	○はたらくプログラムを実施しました。 ・利用者に合わせた治具や棚の作成、道具を活用しながら、作業工程や注意するポイントをスタッフ間で共有しながら作業の進め方を見直しました。 ・法人外作業、ズークの内職作業では、事前準備を進めるグループを増やす事で1つの商品をスピード感をもって進めることが出来ました。 ・古紙のリサイクルではシュレッダーを使用しての作業と手作業に分かれ進めました。利用者自身が進めていけるように古紙の大きさや硬さを工夫して提示をしたことにより作業時間が増えた利用者がいました。また、他センターの利用者・家族からも古紙や牛乳パックを届けてもらえるよう働きかけました。 ・屋外作業（ポスティング、アパート清掃）では、暑さ対策を行いながら、作業時間を可能な範囲で変更する等の工夫をして取り組みました。 ・法人内作業は、玩具の消毒、大掃除、お便りの発行を行いました。	通年
	○くらすプログラムを実施しました。 ・各利用者ができることをスタッフ間で共有し、身に付けてきた生活動作を改めて「自分でおこなう」ことを意識して生活レベルの向上を目指していけるよう利用者に応じて介助方法をかえながら支援を行いました。	通年
	○あそぶプログラムを実施しました。 ・外出やフルーツポンチ作り等の企画では、楽しみにしている利用者が多い中、メニュー以外からの選択や持参していただく事も選択肢にいれる事で嗜好の偏りがあっても、誰もが楽しめるように企画を進めました。 ・すごろくや個々のリクエストに合わせた鑑賞を楽しむ機会も作りました。 ・墨遊びでは講師の先生から引継ぎ、創作活動の中でスタッフがこれまでの積み重ねを継続していけるように努めました。	6ヶ月毎
	○土曜日開所は、5名の利用登録があり、外出と外食を中心に活動を行いました。欠席が事前に把握が出来ている時は、他の利用者に声を掛け利用していただく機会を作りました。	通年
	○健康管理として、利用者や家族の感染状況を確認し利用者の体調面の把握と共に、保健便りの発行や感染拡大の恐れがある時には、注意喚起のお知らせを配布しました。利用者の体調面の把握をする中で、体調に変化があった場合には保護者に早めに連絡をする事により感染拡大を防ぐように心がけました。 ・簡単なダンスを取り入れたり、ウォーキングをしながら飲み物を買って出かけた、ウィズカップを開催し運動と楽しみをMIXさせた企画を実施しました。	通年
	○法人内の他センターと連携をすることで、活動の充実を図りました。 ・くらす、あそぶプログラムでは、創作活動、ウィズファームを発達支援センターと協力をしながら取り組みました。 ・はたらくプログラムでは内職作業を就労支援センターと協力、調整をすることで、役割分担をしながら取り組みました。	通年

3.新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○新規設備計画に伴う、設備面や運営面での検討を行い、工事の打ち合わせに参加しました。また移転に向けて準備を進めていきました。	通年
	○実習生を前期1名、後期2名受け入れました。 ○発達支援センターの利用者に「はたらくプログラム」の中で、アパート清掃を体験してもらう機会を作りました。	通年
	○長野市障害福祉ネット「かつどう部会」へ参加しました。 「高齢者を迎える障害のある人と家族への支援、通所施設利用者の8050問題を考える」「健康管理について考える」との議題で情報交換を行いました。	8月、10月
4.職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故報告・気付きの中から、再発防止に努めるようにしました。 ○スタッフ間のミーティングでは、個別支援計画に対してのモニタリング会議や日々の支援の中で、気になった事や対応に迷うこと等を出し合いながら情報共有や支援の方向性を話し合う場を作りました。 ○てんかん発作時の対応についてケースを振り返りながら、スタッフに向けて発作時・救急搬送時について確認を行いました。	通年
	○虐待防止や思春期における性教育についての研修、発達障がい支援者研修会へ参加をしました。新たな発見や支援に活かせるような点をスタッフ間で共有しました。	通年

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数	平均利用者数	平均実利用者数
R05	年度	21	1	15.7	15.7
R06	年度	20	0	12.9	16
R07	上半期	22	2	13.6	16.8
	年度	22	2	13.6	16.8

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
R05	年度	0	4	11	6	5
R06	年度	0	4	9	7	5
R07	上半期	1	3	11	7	5
	年度	1	3	10	8	5

2. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
開所日	22	21	22	23	18	21	23	19	22	20	19	22	21
延人数	371	358	366	376	304	357	397	311	371	340	320	372	354
稼働率	84%	85%	83%	82%	84%	85%	86%	82%	84%	85%	84%	85%	84%

○分析

○20名の定員に対し22名の登録となります。
 ・稲荷山養護学校を卒業された方を4月に新規で2名受け入れたことにより水曜日の実利用者数が20名となりました。(内、1名は週3日利用、1名は週2日利用)
 ・新規で週2日利用されていた利用者が併用先で方不明になる事が多発したことから、併用先の利用を終了。6月から週3日受け入れをすることになりました。活動場所の窓を開けづらくする工夫と防犯ブザーがなるような機械をつけ、スタッフ間で声を掛けあいながら見守ることを続けるよう対策をとりました。
 ・4月から人員配置加算を【2.5:1】から【2:1】に変更しました。変更したことにより1人あたり130単位増えました。

○月あたりの平均利用者数は13.6人(標準時間が5～7時間の方は0.75人、7時間以上の方は1人としてカウント)となりました。体調不良での欠席や保護者の緊急入院、短期入所等の利用があり、6月・7月・11月は稼働率が下がっています。

○電話面談4件、支援会議37件、面談2件、区分調査8件、移行支援会議1件を行いました。見学対応は10件、受け入れ検討のための学校見学を3件、新規利用の電話相談が数件ありました。

○生活支援センターのご利用案内を作成し配布する事で、利用時のルールや感染症や災害時の対応、持ち物の確認、服薬依頼書作成等の周知を行いました。

○活動面については、生活支援センターのスタッフの入れ替わりが多くあったため、1つ1つの活動を作業工程や注意するポイントを確認しながら進めました。ヒヤリハットや利用者の相性、介助の必要性のバランスの中から、活動の部屋を分けたり、情緒に応じて活動を切り替えウォーキングやドライブに出掛けたり、個別に対応を行う中で、利用者同士がお互いに安心して過ごす事ができるように活動を行いました。

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加して行くことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。
2	事業内容	障害福祉サービス ○就労移行支援 ○就労継続支援B型 ○就労定着支援 ○就労選択支援 助成金・補助金 ○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員：就労移行10名、就労継続支援B型10名 開設日：月曜日～金曜日(平日)及び土曜日(1/月) 開設時間：8:30～17:30 サービス提供時間：9:00～16:00
4	職員体制	○管理者・サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員2名 ○職業指導員3名 ○定着支援員3名 ○就労選択支援員 ○工賃向上達成指導員1名

事業目標	実績報告	実施月
1. 一般就労を目指します	【就労移行支援】 ○就職者数2名(目標:5名以上) ・ハローワーク求人や関係企業と連携して見学、実習を実施しました。学習会にて企業担当者から話を聴くことで企業の生の声に刺激を受け、見学、実習を含め働くイメージ作りができました。実際に観ることを大切に、見学は例年以上に行ないましたが、見学のみや見学してみても先を希望しないケースもあり、体験、実習に繋がらず就職者が少ない結果となりました。	随時
	【就労継続支援B型】 ○就職者数1名(目標:1名以上) ・自分のペースでゆっくり働く準備を整えていく方から、就職に向けて活動している方まで、個々のステップで意欲は高めていくことができました。様々な企業で実習を重ねて、実習期間を長く設定することで、ご本人が環境や仕事に慣れ、強みや課題をご本人、職場と共有することができ1名就職につながりました。	随時
	【共通】 ○個別支援計画について ・基本月1回振り返りを行い、ご本人が主体的に計画を立てられるようセルフシートも活用し一緒に考えました。スタッフ全員が利用者としつくり話す時間を作ることで、誰にでも相談できる雰囲気づくりや素直に話せる関係を築いていくことができました。一人一人の目標に沿った確認票を基に振り返りを行なうことで、前向きに訓練に取り組むことができました。	1～6ヶ月毎
2. 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を提供します	【共通】 ○施設外就労について ・老人ホームの清掃やシャツ交換、金属加工会社の製造に係る作業を行いました。施設外を不安に感じていた方も、まずは見学することで仕事のイメージを持つことができ、半日からのスタート、作業内容や工程を個々に合わせる工夫することで施設外就労に参加する方が増えました。	通年
	【共通】 ○新規実習先の開拓 ・利用者と一緒にハローワークに行き、また一人でいける方は定期的にハローワークへ行く機会を作り、求人検索や相談を重ねる中で、新規企業への問い合わせを積極的に行い実習件数が増えました。ご本人の希望に合わせて、職種や環境を調整し、体験・実習を行いました。	毎日
	【共通】 ○新規実習先の開拓 ・利用者と一緒にハローワークに行き、また一人でいける方は定期的にハローワークへ行く機会を作り、求人検索や相談を重ねる中で、新規企業への問い合わせを積極的に行い実習件数が増えました。ご本人の希望に合わせて、職種や環境を調整し、体験・実習を行いました。	通年

	<p>【就労継続支援B型】 ○事業所内訓練の充実について ・他部署と連携し、お菓子のパッケージ作業や古紙回収を行いました。 ・新たな作業の開拓で数社営業を行ない受託契約にはつながっていませんが、施設外就労先の企業から事業所内でできる作業も受託するようになりました。 ○工賃アップについて(B型平均:19,183円 ※令和6年度:15,687円) ・金属加工会社の新規作業を請け負うことで活動日や従事人数が増え、工賃アップにつながりました。</p>	通年
2.一人ひとりのニーズに合わせた働く場を提供します	<p>【就労選択支援】(利用者:1名) ○10月にスタートした新事業で、市の自立支援協議会のワーキングに参加しモデルケースを実施しながら準備を行ないました。 ○3月から利用者を受け入れ、事業所での活動や企業・関係機関の見学等、ご本人の希望や適正に合った働き方をご本人が選べるよう支援しています。</p>	通年
	<p>【共通】 ○社内学習会について ・水曜日、土曜日開所を中心に学習会を行い、就職に向けた座学やSSTを中心に、余暇的な要素の企画も取り入れながら実施しました。 ・就職までの道のり(セルフプラン) ・お金の使い方 ・挨拶、言葉遣い ・身だしなみ ・働くとは ・日常生活 ・企業の方のお話 ・良い所探し ・履歴書の書き方 ・面接の受け方 など</p>	1/月 適宜
3.就職後も安心して働き続けることができるよう、丁寧なフォローアップをします(目標定着率80%以上)	<p>【定着支援】 ○企業訪問、面談等の定着支援について(定着率 79%) ・就職後は、職場や関係機関と連携して過度な支援にならないよう配慮し、ご本人が安心して働き続けられるよう支援しました。定着支援終了後も安定して働き続ける方がいる一方で、精神的な不調や人間関係がうまくいかなかったことで離職に繋がるケースがありました。 ○在職者交流会 ・ボウリング&茶話会に18名、ラウンドワンでのレクリエーションに21名の方が参加し、近況報告や交流を深めることができました。</p>	随時
4.職員の就労支援技術の向上を目指します	<p>○支援スキルの向上について ・毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタッフミーティングを実施し、日々の様子や課題、スタッフの関わり方などについて振り返りました。 ・可能な限り職員全員がハローワーク同行、職場見学や体験など、施設外支援に対応できるよう経験する機会を設けました。</p>	毎日
	<p>○外部研修参加について 新人職員研修、就業支援基礎的研修、就労支援研修といった外部研修に積極的に参加しました。養護学校の見学会にも参加しました。</p>	随時
5.新規利用者の確保に向けた活動を展開します(目標年間平均稼働率80%以上)	<p>○利用者確保に向けて ・相談支援センター等関係機関と連携することで、見学・体験の受け入れを積極的に行ない、移行5名、B型3名が利用に繋がりました。一方移行3名、B型5名が利用終了となり、平均稼働率は移行82%、B型50%となっています。</p>	随時

(就労別紙)

1. 利用状況

		就労移行			就労継続B型			就労定着		
		実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	離職者数
R05	年度	25	11	90%	6	6	30%	17	5	0
R06	年度	22	14	57%	12	5	53%	18	4	4
R07	上半期	12	5	81%	12	3	58%	12	1	2
	下半期	12	3	83%	9	0	41%	11	2	1
	年度	15	8	82%	12	3	50%	14	3	3

2. 月別利用状況

就労移行		定員10名												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日		21	21	21	23	18	20	23	19	22	20	19	22	20.8
登録者		11	11	10	12	10	10	10	10	11	11	10	10	10.5
稼働率		87%	83%	78%	84%	73%	81%	81%	70%	83%	84%	91%	94%	82.3%
就労継続B型		定員10名												
登録者		9	10	10	10	11	9	9	9	8	7	7	7	8.8
稼働率		59%	59%	58%	59%	61%	55%	51%	47%	38%	36%	41%	32%	50%
就労定着														
登録者		11	11	12	12	11	9	8	8	9	9	10	8	9.8
利用者		10	10	8	9	10	8	5	4	8	4	8	4	7.3
就労選択														
利用者								0	0	0	0	0	1	0

3. 利用経路 ※()内B型

※サービス変更は就労アセス→Bも含む

		市町村	就業・生活 支援センター	ハローワーク	医療機関	教育機関	相談機関	センター内の サービス変更	その他
上半期		0	0	0	0	4	2(1)	1(1)	1(1)
下半期		0	2	0	0	0	0	1	0
年度		0	2	0	0	4	2(1)	2(1)	1(1)

○分析

就労移行
<p>今年度は11名(内新規4名)でスタートしました。見学・体験を積極的に受け入れを行い4名(1名はB型から移行)が利用に繋がりました(内就労アセスのみの利用者5名、内1名は就労選択支援モデルケース)。利用者の希望に合わせて積極的に就職活動を行い2名の方が就職しました。また生活の安定を優先、支援なく就職活動を希望、B型へ移行を理由に3名が利用終了となり、現在は10名で活動をしています。利用者全員、就職を希望している方で7~8名が見学または実習する予定になっています。稼働率は82%となりました。</p>
就労継続B型
<p>今年度は9名で(内新規0名)でスタートしました。見学・体験を積極的に受け入れ、3名(1名は移行から移行)が利用につながりました。B型の方もご本人のニーズに合わせて積極的に就職活動を行ない1名の方が就職しました。また生活面を優先するため、サービスの変更(他のB型、生活介護)を理由に5名が利用終了となり、現在7名で活動をしています。月数日の利用の方が3名程いますが、稼働率は50%となっています。ゆっくり自分のペースで準備をしている方も、施設外就労先の見学、企業見学にも参加して就職への意欲を高めていくことができました。</p>
就労定着
<p>今年度は14名の方が利用し、3名が利用期間(3年)が終了しナカポツに引き継いでいます。安定して3年を経過する方がいる一方で、3名の方が離職となりました。職場に訪問し職場や関係機関とも連携し、ご本人が安心して働き続けられるようサポートに努めてきましたが、体調不良や人間関係がうまくいかなくなり離職となっています。オフ会(在職者交流会)を2回実施し、延べ39名が参加しました。</p>
就労選択
<p>再就職を希望しているが希望職種はどんな仕事なのか、また支援は必要と感じているが、どんな支援機関があるのかというニーズで1名の方が利用されました。今後2名の方が利用予定で支援学校の生徒も受け入れていきます。</p>

4. 実習状況

		見学	実習	ジョブコーチ
R05	年度	22	11	8
R06	年度	15	8	5
R07	上半期	14	3	2
	下半期	12	4	2
	年度	26	7	4

見学及び実習先(職種)

(見学)

・東畜 ・フジケイ ・カヤバ ・ジョーシン南長野 ・長野電鉄
 ・東横IN東口 ・綿半千曲 ・新光テクノサーブ ・マツモトキヨシ南長野
 ・丸金 ・デイリーはやしや ・長野リネンサプライ ・サニクリーン甲信越
 ・松代総合病院 ・ダイハツ ・JAあもり直売所 ・日本無線

(見学・実習)

・新光テクノサーブ(環境整備等) ・東横IN東口(清掃等)
 ・三和製作所(製造補助等) ・長野電鉄(清掃等)
 ・堀内精工(製造補助等) ・スターバックス千曲(フロア業務)
 ・青木固研究所(清掃等)

○分析

年間計画に沿って見学26件、実習7件実施しました。働くイメージづくりを目的に希望者全員がグループでの見学も行い、B型利用者もほとんどが参加しました。就労移行の利用者は、ご本人が選んだ求人情報を中心に見学を行い、自主性を大切にして活動しましたが実習に繋がるケースが少なかったです。将来働くことをイメージできるよう見学、実習は計画的に実施していきます。

5. 就職状況 ※()内B型

		就職者数	平均利用期間	平均実習日数
R05	年度	4	1年2ヶ月	14
R06	年度	4	1年7ヶ月	19
R07	上半期	1	1年2ヶ月	10
	下半期	2(1)	1年10ヶ月(4年)	10(29)
	年度	3(1)	1年6ヶ月(4年)	10(29)

就職先

・新光テクノサーブ
 ・ジョーシン南長野
 ・青木固研究所

○分析

今年度は3名の方が就職しています。興味のある職種で仕事を探し、体験・実習を重ねながら、適性や強みを活かせるような職場に就職することができました。日々の訓練(作業)を中心に取り組む中で定期的に振り返りを行ない、ご本人と丁寧に向き合うことを心掛け、自信を付けながら成長していくことができました。見学のみのケースも多く、また実習して企業は採用に前向きであってもご本人が希望しないケースもあり、就職者が少ない結果となりました。

1 事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて総合相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、支援に取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。
2 事業内容	障害福祉サービス ○指定特定相談支援事業 ○障害児相談支援事業
3 事業概要	開設時間平日9:00～18:00
4 職員体制	管理者1名、相談支援専門員2名(専従2名)

事業目標	実績報告	実施月
1. 基本相談支援を行います。	○基本相談はウィズの各センターを利用する方が主でしたが、その他総合支援センターからの依頼で外部の相談支援も実施しました。相談支援機関として中立公平性、客観的な視点をもって取り組みました。	通年
	○相談内容は多岐に渡りました。障害福祉サービスだけでなく、インフォーマルな支え(家族、友人、地域の方々など)と密につながっていく必要性を感じました。	
2. 質の高い事業者を目指します。	○日本相談支援専門員協会主催の県外研修に参加し、行政報告、組織作り、行動障害の支援者ネットワーク等についての講義を受講し、他県相談支援専門員との交流を深めました。	通年
	○長野市ふくしネット相談支援事業所連絡会、長野市南部の会に参加し、事例検討会の持ち方、就労選択支援、発達障害の方のサポート、加算関係について学習をし、他相談員との課題の共有、解決に向けての取り組みについて意見交換を行いました。	
3. 関係機関との連携を強化します。	○相談内容に応じて、本人、保護者、幼保、教育、行政、福祉、労働、その他関係機関と顔の見える連携を心がけ、繋がりを作ってきました。	通年
	○主任相談支援専門員の連絡会が定期的に行われ、主任の役割、地域の支援体制づくり、研修会、連絡会の計画について話し合いをしました。	

○利用状況

		障害児相談支援 子ども			特定相談支援 大人			備考
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
R05	年度	79	86	149	70	70	129	
R06	年度	77	91	146	72	68	141	
R07	年度	76	86	139	69	70	120	

分 析

登録者数については、横ばいとなりました。数自体は横ばいですが、新規利用とサービスの終了に伴う相談支援の終了とで人自体の入れ替わりはありました。今年度は、就労選択支援のスタートとともに利用者は1名だけでしたが、今後大幅に利用の増加が見込まれ、それに伴い相談支援の増加利用も見込まれます。

新規利用の依頼については、自法人のサービス利用については、基本的には断らずに、開始時期の調整等で対応しました。利用される方にとって、不便にならないようにスピード感を持って、相談支援を実施しました。

相談支援専門員の役割は広範囲に渡りますが、できること、やるべきこと、できないことを見極めながら、取り組んで行く必要性を感じました。

1	事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。		
2	事業内容	雇用安定事業 ・ 生活支援事業 長野県短期トレーニング事業		
3	事業概要	開所時間:9:00～17:30、月～金		
4	職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー 1名 主任職場定着支援担当 1名	就業支援ワーカー 4名 生活支援ワーカー 1名	計 7名

事業目標	実績報告	実施月
1. 本人・家族の想いに寄り添いながら就業・生活支援を行います	○就業支援 ・面談～職場見学・実習と本人の意向を確認しながら本人が意思決定できる支援に努めました。 ・新人職員に向けたアセスメント、個別支援計画作成のための研修が進められませんでした。	通年
	○実習支援 ・『見るだけ』、『体験だけ』の方は今年度6名でした。3日～5日間程度の体験を予定していましたが、1日でリタイアする利用者もいました。職業選択で迷う利用者にとっては良い経験、機会になりました。 ・ハローワークからの周知もあり、実習本来の”体験”目的で実習制度を企業に利用して頂けるようになりました。	通年
	○定着支援 ・定着訪問のみでなく、電話やメール等を用いて支援を行いました。在職者が増えてきているので、優先順位をつけ必要な企業に訪問をしました。 ・離職希望や企業からの相談ケースは、主任職場定着支援担当が中心となり、本人、企業双方にとって良い方法を考えながら進めました。	通年
	○生活支援 ・中高年齢の利用者が増加し、自身の体調や金銭管理、親の介護や亡き後の暮らしのこと、それらに伴う職業生活の維持問題など生活面での相談や支援が増加しました。 ・体調面が整わず就職までの道のりが遠い利用者寄り添いつつ、関係機関の方と情報共有をしながら面談を重ねてじっくりと向き合いました。	通年
2. 地域とのネットワークの構築や、在職者・求職者のための交流会を開きます	○地域のネットワーク構築 ・ハローワークの専門援助部門と事業所部門の担当者情報共有、連携強化ができるよう連絡会議を開催しました。 ・中高年の障害者雇用をしている企業8社11名が参加し懇談会を開催しました。”社福)林檎の里 あおぞら”の池田所長をお招きし、生活面で活用できる福祉サービスや体制等についてお話して頂いた後、企業の皆さんからも活発な質問や意見交換がされました。	通年
	○関係機関との連携 ・圏域内の自立支援協議会に参加し、関係機関と情報共有を図りました。 ・圏域内の福祉サービス事業所職員を対象とした”スキルアップ向上研修”を開催しました。外部講師(兵庫教育大学教授 池田氏)をお迎えし就労支援の基本を学びました。 ・個々のケースでは役割分担を意識し関係機関と密な連携を図りました。	通年

<p>2.地域とのネットワークの構築や、在職者・求職者のための交流会を開きます</p>	<p>○在職者交流会・ピアサポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在職者交流会は集合型4回、プレ(支援学校就職内定者)を1回開催しました。集合型では計4回で38名の参加があり、県庁見学やリース作り等を開催しました。プレでは16名が参加し、生活に必要なお金を知る、実際に給料を振り分ける、クレジットカードや借金について親子で考える機会になりました。 ・ピアサポートは4回開催。企業見学会で3社の見学を行いました。また9月に全3回で就職面接会に向けた講座を実施しました。講座は3～4名が参加しました。 ・在職者交流のひとつとして、新潟へのバスツアーを計画、実施しました。ナカボツからは在職者16名が参加しました。見学や思い思いにお土産を購入しリフレッシュする姿が見られました。 	<p>通年</p>
<p>3.新規の利用者、企業、サービス提供事業所の掘り起こしをします</p>	<p>○キャンペーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会等でセンターの役割や支援について周知しました。 ・ゼロ企業や未達成企業を訪問し、業務の切り出しや職場環境のアセスメント等の支援をしました。 	<p>通年</p>
<p>4.職員の就業・生活支援技術の向上を目指します</p>	<p>○ミーティング・研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日17:15～、毎週水曜日午後にミーティングを行いました。各自ケース報告や課題のあるケースについてはケース検討を行いました。 ・社外研修に参加をして、個々の支援力向上や法改正、雇用情勢等の情報収集に努めました。 	<p>通年</p>

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		登録者数	新規利用者数
R05	年度	955	94
R06	年度	1057	102
R07	上半期	1094	37
	下半期	1147	53
	年度	1147	90

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	62	25	368	95	256	19	705
求職中	19	6	110	26	192	18	339
その他	6	3	43	9	47	7	103
合計	87	34	521	130	495	44	1147

1) 出身地域別

	上半期	下半期	合計
長野市	829	45	874
同一圏域内	250	8	258
その他	15	0	15

※同一圏域内

須坂市、千曲市、信濃町、飯綱町、小布施町、高山村、小川村、坂城町

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	11	12	23
職業センター	0	0	0
特別支援学校	1	21	22
就労移行	8	5	13
福祉施設	5	5	10
行政	2	0	2
直接利用	1	3	4
その他	9	7	16
合計	37	53	90

3) 相談・支援(システム上)

		件数
R05	年度	8,101
R06	年度	8,343
R07	上半期	3,686
	下半期	4,654
	年度	8,340

4) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
233	256	220	227	232	233	239	236	254	218	214	239	2,801

○分析

年間実人数 695

・新規相談について
R7年度末時点での新規相談は173件でした(求職者67件、在職者60件、実習希望24件、学生22件)。そのうち新規登録に繋がったケースは90件でほぼ例年通りでした。傾向としては普通高校や専門学校生、大学生等の学生相談が昨年に比べ活発になったことが挙げられます。併せて、企業や圏域を超えての紹介、しばらくナカポツを離れていた利用者さんからの相談(24件)が増えています。在職者からの相談も増加しており、今後の方向性(転職か継続等)や支援希望等が主な相談です。

・登録者について
R7年度末時点でのセンター登録者は1,147名でした。新規の相談者に対しては面談を重ねながら本人・家族の意向を聞き取り、必要と感じていただいた時点で登録をしました。新規登録者の利用経路(2)として3番目に多い”その他”は、企業や病院、普通高校、他圏域のナカポツ、基幹センターからの紹介が主です。相談内容に応じて関係機関を紹介したり、支援会議を開催するケースもありました。

・生活面について
福祉サービス利用に繋がった相談は34件(就労移行21件、B型13件)です。生活支援ワーカーによる相談件数は延べ514件でした。生活支援担当者が1年の中で4名交替しており相談件数が例年より300件ほど減少しています。相談内容は主に「不安解消・情緒安定(19.5%)」「就労(17.5%)」、「障がいや病状の理解(11.4%)」の相談が多い状況にありました。今年度は、生活面での相談が多く特に『ご自身の病気や生活相談』、『親の介護や老・障介護相談』、『親亡き後の生活相談』、これらの生活相談に伴い職業生活の維持が難しくなり企業からの相談などが増加しました。ご本人や家族、企業それぞれの希望を丁寧に聞き取りながら、関係機関を繋げつつ連携を図りながら支援をしました。

・相談支援件数について
3)について…延べの相談件数を記載しました。新人職員が2名加入し、生活支援担当者が1年で4名交替したこともあり、年間を通して来所や訪問の相談等が減少しています。4)では月別相談者の実人数を記載しました。昨年に比べ80名ほど減少しています。また、利用者の個別支援に係る関係機関へのコーディネート件数は1063件でした。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
R05	年度	104	2	58%
R06	年度	104	0	58%
R07	上半期	48	3	68%
	下半期	56	0	39%
	年度	104	3	49%

(延べ件数) (実人数)

3. 一般就労に向けたアセスメント件数

R07	上半期	5
	下半期	19
	年度	24

4. 個別支援計画作成件数

R07	上半期	14
	下半期	16
	年度	30

○分析

・職場実習について（目標値：実習幹旋件数105件）

今年度は104件の実習でした。短期トレーニングの実人数は74名うち36名の就職が決まりました。104件のうち1回のみの実習が46件平均日数は5.2日でした。雇用率上昇をふまえて雇用を検討する中で新規企業は短い日数での採否が多かった一方、継続的雇用をしている企業は回数や時間をかけ採否を決めていたと感じました。今年度は”見るだけ（見学会）”を3社、”体験するだけ（実習）”を6件行いました。今後の就労へのイメージを付けられたと思います。半面、実習を計画しても決められた日数を継続出来ないケースもあり難しさも感じました。新規職場実習開拓は18社、うち12件が就職に結びつきました。

・一般就労に向けたアセスメント、個別支援計画の作成について

R7年度のアセスメント件数は24件、個別支援計画は30件でした。経験年数が浅い職員への勉強会や研修時間を確保できませんでした。

3. 就職状況

		就職者数	定着職場訪問
R05	年度	71	697
R06	年度	74	623
R07	上半期	53	303
	下半期	22	200
	年度	75	503

主任職場定着支援ワーカーの相談状況（支援件数）

	身体	知的	精神	その他	合計
業務内容	3	23	40	0	66
対人関係	0	24	21	0	45
生活面	0	38	30	0	68
その他	0	5	0	0	5
合計	3	90	91	0	184

○分析

・就職について（目標値：就職件数75件、就職率79%）

今年度の就職件数は例年並みの75件、就職率は81.5%でした（一般70名、A型5名）。所属機関がなく、当センターのみで相談をしている就職者は新卒を含め53名でした（一般51名、A型2名）。複数特定企業による見学会や職場実習を行うケースが増えたため、昨年よりもセンターのみで相談をしている方の就職が増加したと考えられます。

・定着支援について（目標値：1年経過後の定着率90%）

今年度は503件（昨年度比：-120件）でした。R7年4月～R8年3月に就職をした方の1年経過時の定着率は93.2%でした。精神障害・発達障害の利用者が増えたことで、面談希望が増えていることや、転職希望者の相談が増えたことから職場訪問の希望は上がらず、面談や電話・メールでの支援が中心の方が増えています。その上で必要に応じて企業へ訪問し企業担当者と相談することで、定着に繋げることができました。また、中高年齢者の継続雇用に係る定着訪問は110件でした。昨今、中高年齢の利用者増加に伴い、企業やご本人、家族からの相談支援が増加しています。

また就労定着支援事業所からの引き継ぎが5事業所8件ありました。ほぼ継続雇用が安定しており、支援も必要ない状況の中『何かあった時のために…』とお守り的にナカポツに繋げるケースも増えています。そのため、事業所の定着支援期間中に支援のフェードアウトができるよう各事業所にお伝えしています。

・主任職場定着支援担当について

長年勤めている中で、配置換えや上司の異動等により環境が変わったことで障害理解を得られず不安定になるケースや、ご本人の意欲の低下が原因で倦怠に問題が出るケースが多くありました。業務内容の見直しや働き方について、関係機関や企業と相談をしながら双方にとってベターな方法を模索しました。企業からの相談については、37社の企業から49件の相談がありました。長期雇用の方の体調不良や本人・家族の高齢化による生活面での介入依頼等が多くありました。関係機関とも連携をとりながら、生活面を整えていくことで安定勤務に繋がるよう支援をしました。